

# 結ばれ出ずる宝物



## 結出小学校が遊子小学校に統合し 新たなスタートを迎えました

近年、少子化による児童生徒数の減少は止まらず、学校の小規模化が進行しています。そうした状況を踏まえ、市教育委員会では、子どもたちにとってより良い教育環境を確保するため、保護者や地域の人たちと協議を重ねながら学校の統合を行っています。

結出小学校も令和7年3月に惜しまれつつも閉校し、遊子小学校に統合となりました。4月からは、結出小学校での思い出や新しい学校への希望を胸に、新1年生を含む2人の子どもたちが遊子小学校に通っています。

学校は、教育の場だけでなく、地域コミュニティの拠点として、地域の交流や発展を支え、地域も学校と連携しながら、子どもたちの成長を見守ってきました。そのため、学校統廃合後の持続可能な地域コミュニティについて考えていくことは重要です。

今回は、公民館や学校、保育園など、下波・遊子地区の人たちへのインタビューを通じて、小学校統合後の新しい地域づくりのあり方を特集します。

下波・遊子地区のことと、これからの地域づくりのあり方について、  
両地区の公民館長に聞きました。

伝統を守り、子どもたちに伝えていく

下波公民館 館長 武内春男さん



下波地区は、三浦半島の南西側に位置しています。半島の付け根にそびえる権現山からは宇和海一角を眺めることができ、風光明媚で非常に環境の良いところです。下波地区ではタイ、真珠などの養殖業と、伊予柑、ポンカンなどのかんきつ農業がさかんです。

公民館では、地域の交流と親睦を深めるために、毎年12月に三世代餅つき交流教室を行っています。地域の高齢者サロンの皆さんに運営を手伝ってもらうとともに、下波地区出身者とそ  
の子どもたちも招待し、幼児から高齢者まで幅広い世

代に楽しんでもらっています。

また下波地区では市指定無形民俗文化財のお伊勢踊りが昔から行われてきました。これは小学生男子がきらびやかな稚児風に着飾って豊漁を祈願し踊るものですが、近年は子どもが少なくなり、実施できていません。結出小学校が遊子小学校に統合されたので、下波地区の行事に遊子地区の子どもたちを招くなど地区を超えて伝統を守り伝えていくことも考えていきたいです。



つながりを大切にしたい地域づくりを

遊子公民館 館長 堀田古一郎さん



遊子地区は三浦半島の北東側に位置しています。国の重要な文化的景観に指定されている遊子水荷浦の段畑があり、段畑と海岸線の鮮やかなコントラストがとても美しいです。遊子地区では水産業が昔からさかんで、現在はタイやハマチ、真珠などの養殖業が行われています。

公民館では、自治会と協力し、ふるさとだんだん祭りや段畑夕涼み会などのイベントを開催し、たくさんの方に地域の宝である段畑の魅力伝えていきます。また毎年秋に、ゆすりんピックと称して遊子小学校で地

区運動会を開催しています。この運動会には、遊子地区の子どもだけでなく、遊子小学校に通っている下波地区の子どもたちにも参加してもらい、地区を超えた交流も行ってきました。さらにこの春からは結出小学校に通っていた子どもが遊子小学校に通い出すので、4月に遊子でも行われているお伊勢踊りに下波の子どもにも参加してもらいました。今後も両地区での交流の機会を増やしながら、地域づくりをしていけたらと思います。



結出小学校に通っていた菊地 禅さんに小学校の思い出を、遊子小学校校長の得能 健二さんに学校統合に対する思いについて話を聞きました。

思い出を胸に新しい学校へ

遊子小学校 菊地 禅さん



結出小学校の思い出は、校外学習などいろいろなことに、全校児童3人で力を合わせて取り組んできたことです。また地域の皆さんが優しく見守ってくれたことがうれしかったです。そんな思い出のたくさん詰まった結出小学校が閉校になったのは、とても寂しかった半面、新しい学校に通うことにわくわくもしました。遊子小学校には、甘崎保育園で一緒だった友達や学校間の交流で知っている子もいます。遊子小学校では、勉強も友達づくりも頑張りながら、遊子地区のことも学んでいきたいです。



閉校記念式典の様子



閉校前に地域の人たちと校歌合唱



地域の人と行った花いっぱい運動

それぞれの魅力を学んでもらうために

遊子小学校 校長 得能 健二さん



令和6年度から遊子小学校に校長として赴任し、今年度は蔦淵小学校も兼務しています。

結出小学校の閉校が決まってからは、子どもたちが遊子小学校へスムーズに楽しく通えるよう、学校間の交流学習などを行ってきました。子どもたちには統合への不安もあったと思いますが、何度も交流したことで新しい学校への期待を持ってもらえ、4月に統合式を迎えることができました。令和8年度に蔦淵小学校も遊子小学校に統合されるので、引き続き子どもたちが笑顔で遊子小学校に通



統合式で歓迎の言葉が送られる

えるようにしっかり準備していきたいです。遊子小学校は小さな学校ですが、各学年に複数児童がいます。子どもたちには、一緒に学び合いながら、切磋琢磨してほしいと願っています。また本校ではふるさと教育に力を入れていて、地元の良い海を守るために海岸清掃を行っています。今年度は結出の海岸清掃や水産研究センター見学など下波地区へも活動を広げる予定で、両地区の交流につながればと思います。

## 結出の子どもたちも通っている遊子の甘崎保育園園長の立花 美恵子さんと園児保護者の福田 陽子さんに話を聞きました。

環境が変わっても、変わらない笑顔を守るため

甘崎保育園

園長 立花 美恵子さん



園児保護者 福田 陽子さん



昔は今より子どもが多く、市内にたくさんさんの保育園がありました。その数は減り、甘崎保育園は宇和海地域で唯一の保育園となっています。そのため遊子地区のほかには下波と蔭淵地区などからも子どもたちが登園しています。

小学校の統合で、これから卒業する園児たちの交流は、より密になっていくと予想されます。それぞれの地区の子どもたちや保護者が、これからも笑顔でいられるように、精一杯努めていきたいです。

結婚後、宇和島市に来て、下波地区の結出に住んでいます。結出には保育園が無いので、一番近い甘崎保育園に4歳と1歳の子どもが通っています。

子どもとよく散歩に行っていた結出小学校が閉校し、寂しい気持ちもありますが、これからは保育園と一緒に遊んだ子どもたちが同じ遊子小学校に通えるようになるので喜んでいきます。子どもたちには保育園や学校と一緒に過ごしながら成長してほしいです。

## 光り輝く真珠のように

下波地区と遊子地区は、共に豊かな自然の中で文化や伝統を育んできました。また両地区ともに真珠などの養殖業がさかんです。宇和島の真珠養殖は、真珠貝を育てる「母貝養殖」と真珠自体を生産する「真珠養殖」の分業制が主です。遊子地区にも下波地区から母貝を仕入れて真珠を養殖しているところがあります。

下波で育った母貝が遊子に渡り、真珠層が重なることで美しい真珠になるように、今後より一層、両地区の交流が積み重なり、光り輝く地域の未来が創られていくことを願います。